

## 第 21 期（平成 31 年度）事業報告

### （概要）

令和 2 年 1 月に近隣にインフルエンザが猛威をふるい、その後、世界的に蔓延した新型コロナウイルスの影響で、特養及びショートステイの入所を中止し、デイサービスの事業を縮小した。

その間、ご家族の面会禁止、外部の取引業者等の入館禁止、3密を避ける為、会議、研修等を全て中止し、職員一丸となって入所者の感染防止に注力した。

まだ新型コロナウイルスは収束した訳ではないため、今後共、気を緩める事なく、第 2 波、第 3 波に備え、外出が困難な入所者のストレス軽減の為、日常生活の更なる充実を図っていく。

平成 31 年度事業計画の二本柱の一つである“地域での公益的な取り組み”では、介護予防によるデイサービスA型の充実、地域の高齢者の居場所作り等々、計画は概ね実施出来た。

二本柱の二つ目である“人材確保・定着”では、職員紹介制度等が功を奏し、介護職員が 4 名入職した。職員増員による気の緩みを戒め、常に業務を見直し、ICT 化の推進、介護ロボットの検討等、時代に即した改革を更に進めていく。

平成 31 年度の事業運営状況を報告します。

## 1. 期初の計画と実施状況

期 初 の 計 画	実 施 状 況																		
<p>1. 競争力アップの為の介護技術力強化と人材育成・確保の施策</p> <p>(イ) 各種委員会活動の強化・推進</p> <p>(ロ) プリセプターシップ制度 (新人教育制度)の実施</p> <p>(ハ) 施設外の各種研修への参加派遣</p> <p><u>施設外研修参加目標</u> 50件以上</p> <p>(ニ) 施設内研修会・勉強会の実施 <u>目標 15件以上</u></p> <p>(ホ) 人事考課制度</p> <p>(ヘ) 時給職員の正職員への登用制度</p>	<p>(イ) 10の委員会があり、自主的な業務改善活動を実施。感染,防災,事故委員会に顕著な向上がみられた。</p> <p>(ロ) カリキュラムや教育方法などの見直し充実化を図りつつ、上席職員によるOJTにて個別教育を実施。 平成31年度は職員1名実施</p> <p>(ハ) 研修派遣の実績は以下の通り。</p> <table border="0" data-bbox="807 969 1430 1249"> <tr> <td>介護職員</td> <td>22件</td> <td>(前年度 39件)</td> </tr> <tr> <td>ケアマネ</td> <td>6件</td> <td>(前年度 4件)</td> </tr> <tr> <td>管理栄養士</td> <td>4件</td> <td>(前年度 3件)</td> </tr> <tr> <td>防災担当</td> <td>6件</td> <td>(前年度 6件)</td> </tr> <tr> <td>事務職員</td> <td>7件</td> <td>(前年度 3件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>45件</td> <td>(前年度 57件)</td> </tr> </table> <p>(ニ) 全体研修会 2件 フロア毎の勉強会 7件 新人研修 1件 PT指導による研修 1件 外部講師による研修 3件</p> <hr/> <p>合計 14件 (前年度 19件)</p> <p>(ホ) 制度への理解度、能力・成果主義への考え方は職員に浸透。年3回実施し職能及び夏・冬賞与に反映させた。</p> <p>(ヘ) 先駆的取組であり、平成31年度は正職員へ1名登用した。</p>	介護職員	22件	(前年度 39件)	ケアマネ	6件	(前年度 4件)	管理栄養士	4件	(前年度 3件)	防災担当	6件	(前年度 6件)	事務職員	7件	(前年度 3件)	合計	45件	(前年度 57件)
介護職員	22件	(前年度 39件)																	
ケアマネ	6件	(前年度 4件)																	
管理栄養士	4件	(前年度 3件)																	
防災担当	6件	(前年度 6件)																	
事務職員	7件	(前年度 3件)																	
合計	45件	(前年度 57件)																	

2. 自立支援、地域交流の為の  
各種行事等の実施

(イ) 専門講師への業務委託に  
よる音楽療法への実施

(ロ) 地域福祉の活性化への積  
極協力

(ハ) 施設内外での各種行事の  
実施

(ニ) ホームボランティアの効果的活用

－ 以上 継続事業 －

(イ) 音楽療法士による音楽指導を  
特養で月4回実施。非常に喜ばれ  
ている。

(ロ) 令和元年度も多くの研修受入れ  
実施。

- ・ 知徳高校 (延人数 144名)  
前年度 111名
- ・ 裾野高校 (延人数 6名)  
前年度 10名
- ・ 清水町新規採用教員  
(延人数 6名) 前年度 10名
- ・ 東部看護学校 (延人数 24名) 等

(ハ) 遠足、納涼祭、敬老会、運動会、  
クリスマス会、ふれあい広場への出店  
等を実施したが、新型コロナウイルスの  
蔓延により、令和2年1月からは  
節分等年間行事は中止とした。

(ニ) 現在3つのホームボランティアが定期的  
に施設にて活動されている。メンバー  
の方々にもやりがいを感じて頂  
ける様、受入れ側も努力を惜しま  
ずに良い方向に向けて継続して  
行きたい。

## 2. その他 実施事項

### 社会福祉充実計画の実施

改正社会福祉法により、社会福祉法人は、保有する財産について、事業継続に必要な財産の額を控除した上で、再投下可能な財産（社会福祉充実残高）を費消する必要があり、平成31年度の計画を実施した。

・ 温冷配膳車購入	1,468,800 円
・ 低床ベット	4,261,960 円
・ 多様な需要による食事提供	1,500,000 円
・ 介護記録 O A 化保守	600,000 円
・ 職員の増員・奨励金他	44,447,000 円

### 介護予防・日常生活支援総合事業の継続

町が行う介護予防事業を受託し、要支援者、生活機能の低下がある人を対象に短時間のデイサービス A 型を実施している。現在、15 名程度の方が週 2 回利用されている。

自立した高齢者を対象にした、いきいき倶楽部は週 1 回実施し 15 名程度の方が利用されている。

また、地域の高齢者が月に 1 回施設に集まり親睦を深めている。それぞれの事業にロコモ体操教師を無料で利用して頂き、運動機能向上に大いに貢献した。

### 備品の購入

開設以来 20 年が経過し、器具・備品の不備・故障が多くあり、30 年度に続き備品を購入した。

・ 軽自動車	1,442,560 円
・ リクライニング車椅子 3 台	418,240 円
・ 深井戸水中ポンプ及び 井水用加圧給水ポンプ交換	3,153,600 円
・ サーバー及びパソコン 11 台	3,760,092 円
・ 非常用自家発電装置設置及び電気工事 (内、補助金)	4,543,000 円 (1,474,000 円)

## 不適切介護絶滅運動

下記事項の絶滅を図り、自己評価と他者評価を実施。

- ・利用者への“ちゃん付け”絶滅
- ・無言介護絶滅 ⇒ 必ず声掛け
- ・スピーチロック（利用者の行動を直接的な表現で制止）の絶滅
- ・起床後の布団の整頓（朝忙しい時間帯もそれなりに畳む）

何度か実施しているが、一部利用者へのちゃん付けやスピーチロックがなかなか改善しない。少し油断をすると、元に戻ってしまうので、習慣になるまで今後も継続実施する。

## 防災の強化

※南海トラフ巨大地震を想定した避難訓練を実施してきたが、温暖化の影響で風水害に甚大な被害が出ており、福祉避難所の必要性が更に高くなっている。清水町職員多数参加のもと、初めて福祉避難所の総合訓練を実施した。参加者から貴重なご意見を頂き、今後の改善に繋げていく。

※県に施設整備補助金を申請し、非常用自家発電装置を屋上に設置した。発電装置により、1F主要部分、2F、3F特養食堂部分の照明及び情報収集の為にテレビの電力を確保した。

※利用者に防災食を年2回提供した。

お粥が主であったが、おいしいと好評であった。

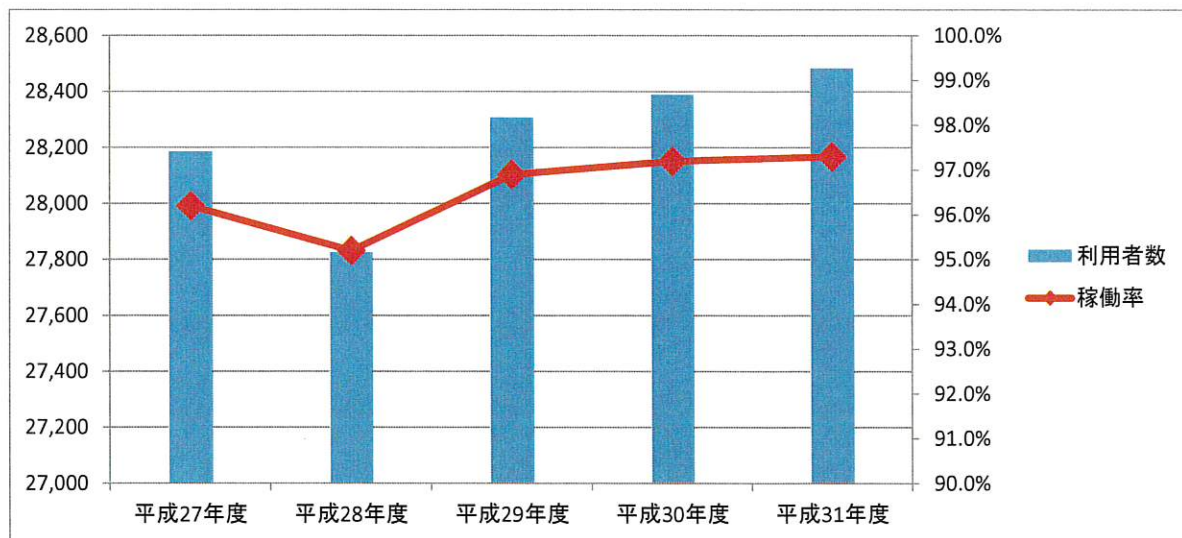
※BCP（事業継続計画）の強化

- ・震災後、7日間の飲料水、おむつ、食糧の備蓄
- ・防寒具（毛布、使い捨てカイロ等）の備蓄
- ・非常用トイレ用品の購入（凝固剤、ビニール等）
- ・照明用品（ライト、ランタン等）の備蓄
- ・夏季に必要な冷却シートの購入

### 3. 各部署の事業運営状況

#### a) 特養

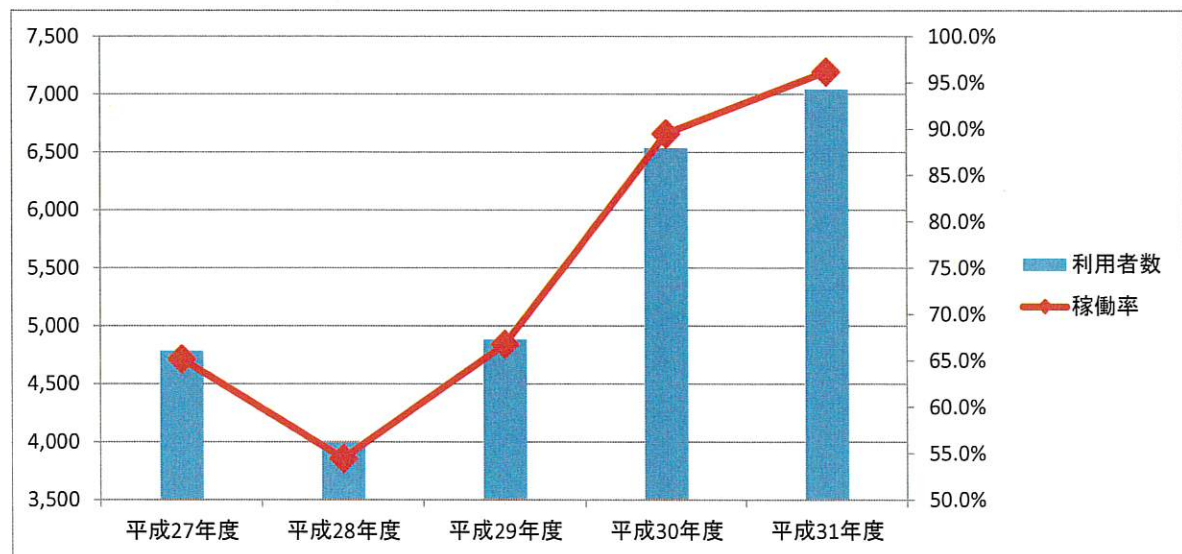
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
利用者数	28,185	27,825	28,307	28,389	28,484
稼働率	96.2%	95.2%	96.9%	97.2%	97.3%



入院日数659日(前年715日)、入所ロス15日(前年334日)  
退所者がでたあと 迅速に入所に繋げた。

#### b) ショートステイ

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
利用者数	4,785	4,000	4,883	6,537	7,044
稼働率	65.2%	54.5%	66.8%	89.5%	96.2%



利用者確保に尽力した職員の努力により 利用者数稼働率は更に向上した。

#### 特養・ショートステイ 合計稼働率

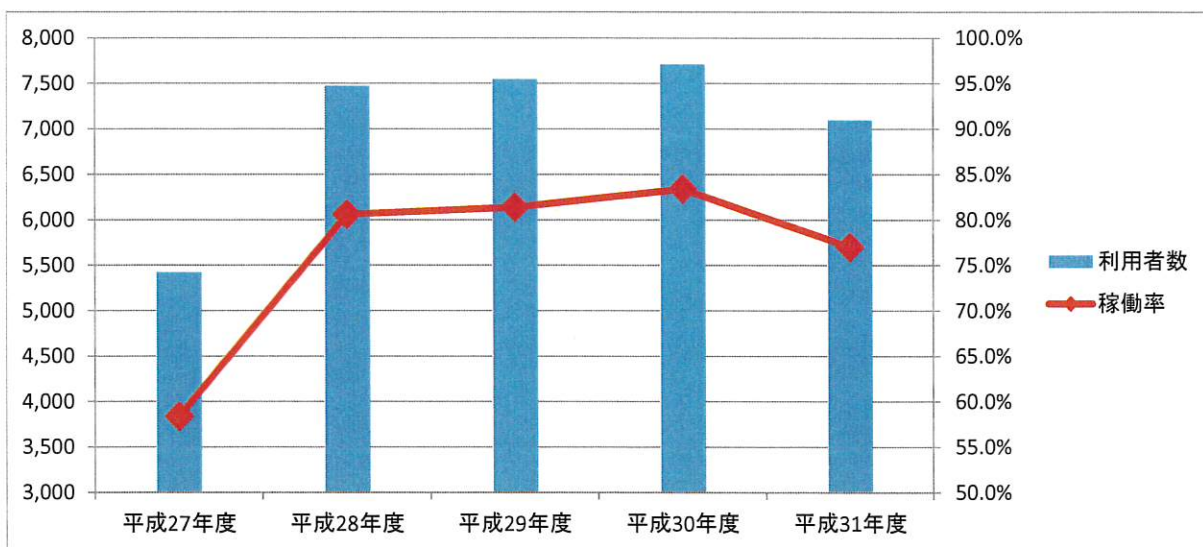
今年度 利用者数 35,528名 稼働率 97%

前年度 利用者数 34,926名 稼働率 95.6%

特養入所者の入院時のベッドをショートステイで有効に利用し、稼働率は上昇した。

### c) デイサービス

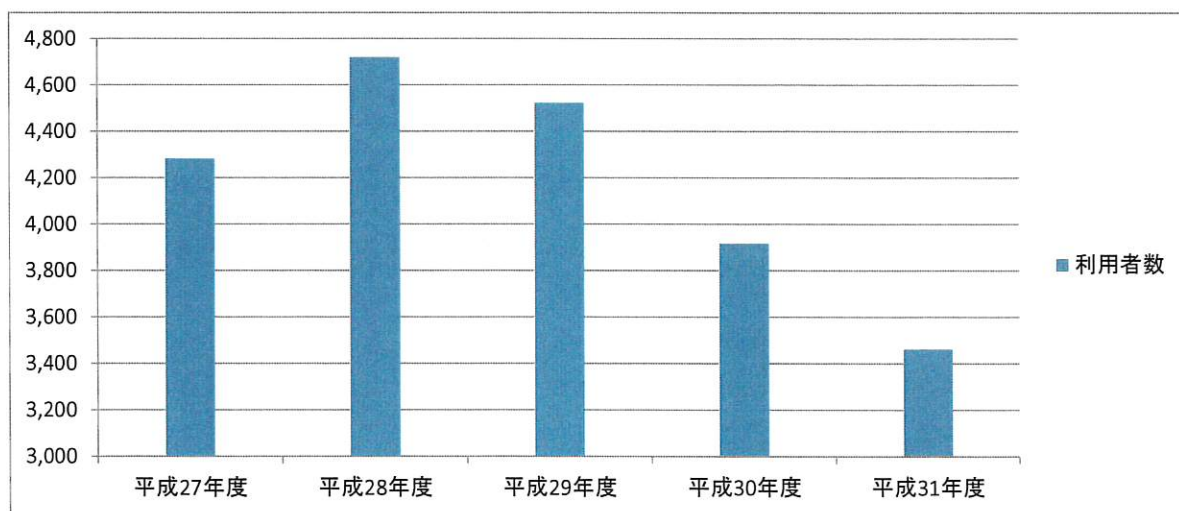
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
利用者数	5,421	7,474	7,547	7,710	7,095
稼働率	58.4%	80.6%	81.4%	83.4%	77.0%



新型コロナウイルス感染症の対応として、令和 2年 1月よりサービスを縮小した為、利用者数稼働率は減少した。

### d) 訪問介護

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
利用者数	4,282	4,720	4,523	3,919	3,463



身体介護の利用者が重症化し、入院となった利用者が数名いた為、利用者数は大幅に減少した。利用者増に鋭意取り組まなくてはならない。

#### 4. 事故の傾向と事故対策

a) 全体件数

全体件数は 274 件（状況報告書 258 件、事故報告書 16 件）と前年より 62 件減少。

b) 転倒

前年度と比べ減少した。転倒リスクの高い利用者を職員間で周知、見守りが出来た為、転倒件数を減少させる事ができた。

c) 転落

2F は前年度に比べ 15 件増加した。同じ利用者の転落事故が多かった。3F は 4 件減少。今後も見守り職員をホール内に配置し対応を強化する。

d) 重傷

骨折事故を重傷事故として扱い、件数は 3 件減少した。自立の方の事故が多かった。事故が発生するたびに職員を招集し原因を究明して早めに対策を立てた事が重症事故減少に繋がった。

e) 誤嚥・異食・誤飲

透析の方の緑茶の誤飲が多くあった為、職員間で注意・報告を徹底してミスを減らすよう努力した。

f) 薬

前年度より減少した。フロア会議にて配薬マニュアルの読み合わせを行い都度周知させるようにした。

g) その他

擦過傷や内出血の発見が報告書にあがったが、前年度より減少した。全体に事故件数が減少した事により減少したと推測される。

※事故件数は減少したとは云え、まだまだ多い。

少しでも事故になりそうな事はヒヤハットにあげている。平成 31 年度のヒヤハット件数は 2,851 件となった。職員が真剣に事故撲滅に取り組んでいるのが伺える。今後も受診に至る骨折などの重傷事故を少しでも減らせるよう努力する。

事業報告の付属明細書はありません

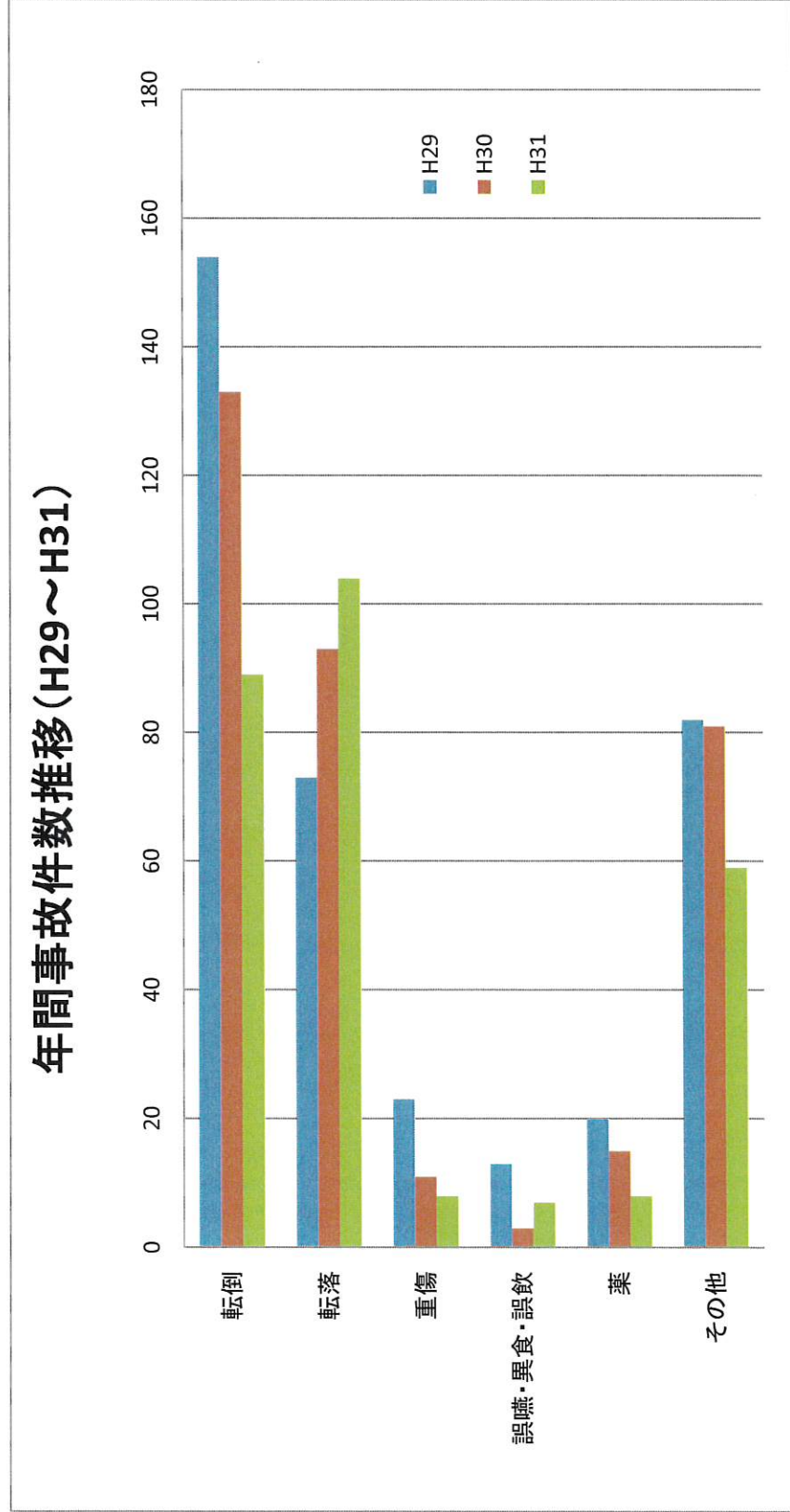


全体年間推移			
	H29	H30	H31
転倒	154	133	89
転落	73	93	104
重傷	23	11	8
誤嚥・異食・誤飲	13	3	7
薬	20	15	8
その他	82	81	59
合計	365	336	275

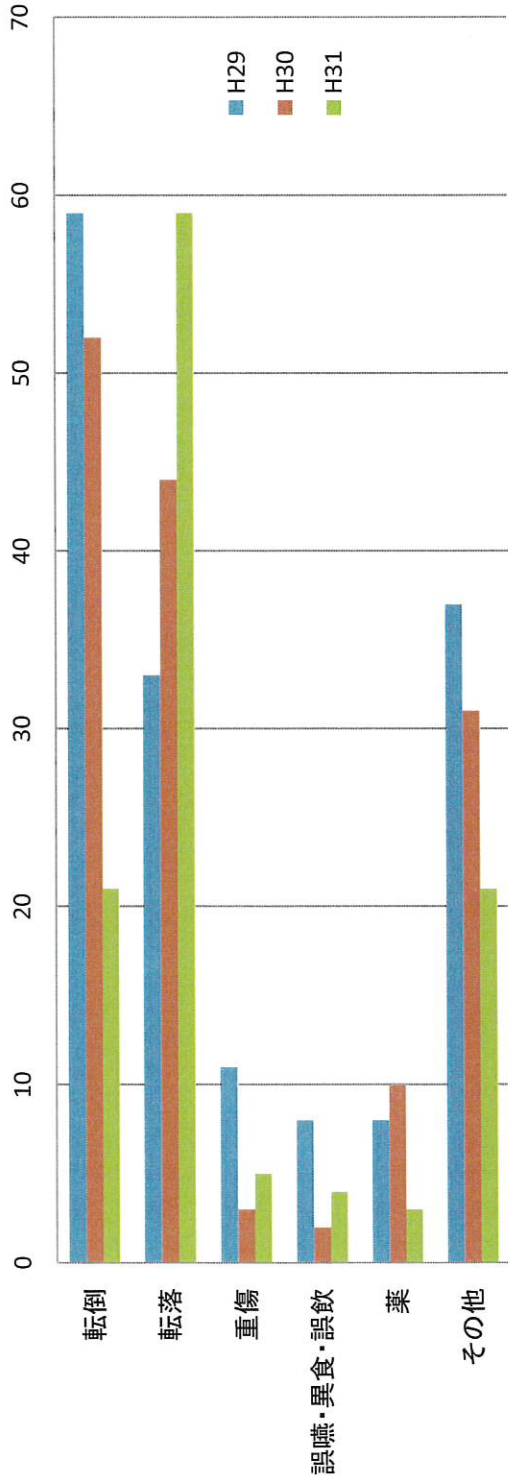
2F年間推移			
	H29	H30	H31
転倒	59	52	21
転落	33	44	59
重傷	11	3	5
誤嚥・異食・誤飲	8	2	4
薬	8	10	3
その他	37	31	21
合計	156	142	113

3F年間推移			
	H29	H30	H31
転倒	95	81	68
転落	40	49	45
重傷	12	8	3
誤嚥・異食・誤飲	5	1	3
薬	12	5	5
その他	45	50	38
合計	209	194	162

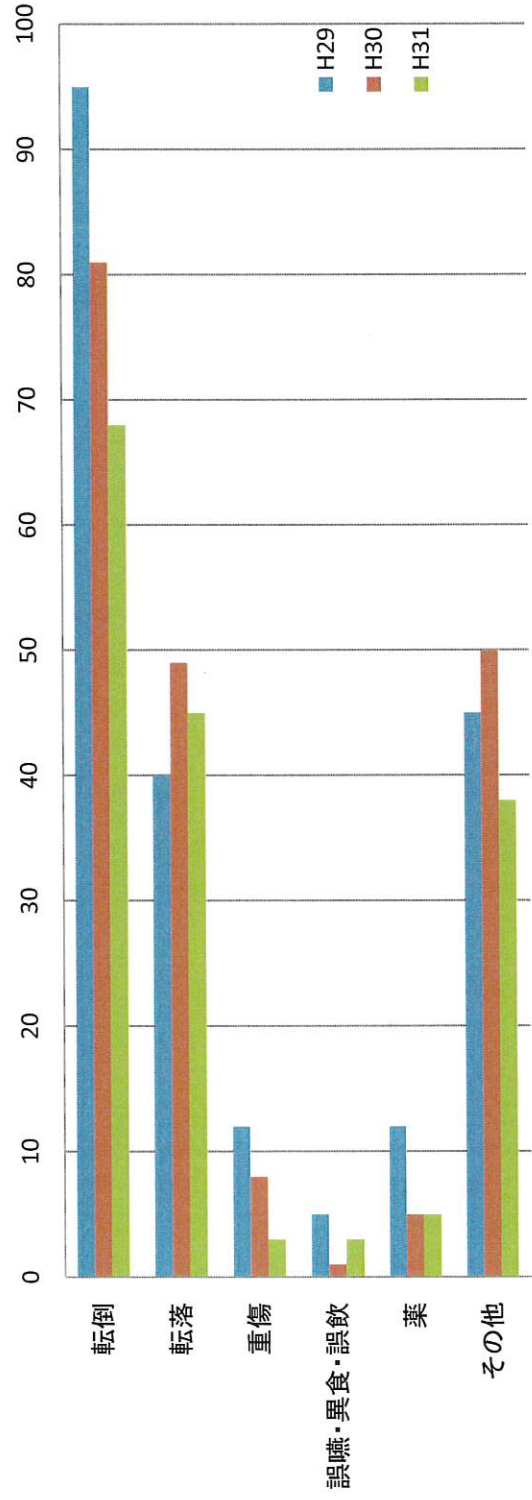
年間事故件数推移 (H29～H31)



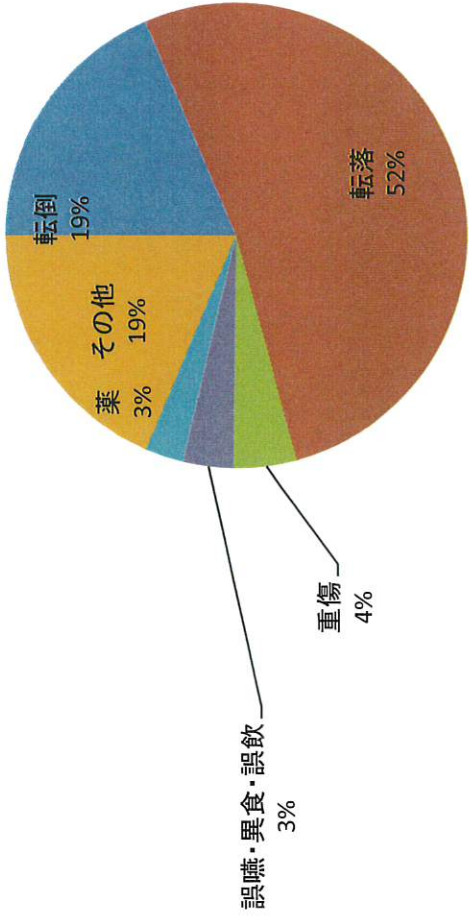
## 2F 年間事故件数推移



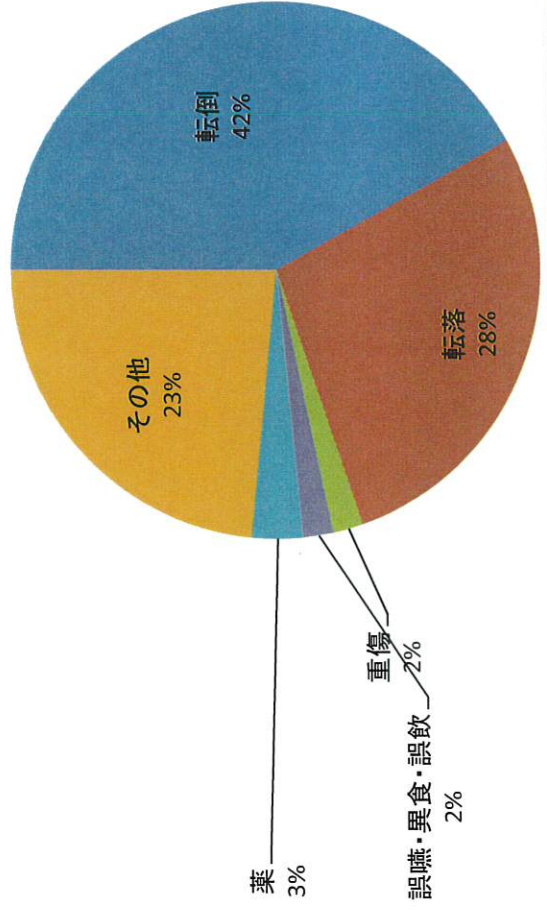
## 3F 年間事故件数推移



### H31年度 2F入所者事故区分内訳



### H31年度 3F入所者事故区分内訳



### H31年度 ヒヤリハット集計

	医務室	2F	3F	計
2F入所者	0	463	0	463
2Fショート	0	209	0	209
3F入所者	0	0	1053	1053
3Fショート	0	0	809	809
職員	0	53	224	277
家族	0	7	0	7
NS	0	15	2	17
外部	0	0	0	0
不明	0	0	3	3
ボランティア	0	0	0	0
配薬セットミス	0	12	0	12
日誌記入ミス	0	1	0	1
与薬ミス	0	0	0	0
その他	0	0	0	0
計	0	760	2091	2851

## H31年度 事故対策委員会事業報告

月	報告内容
4月	H30年度事業報告とH31年度事業予定の確認 H30年度発生事故の傾向と対策を検討 フロア会議にて誤嚥マニュアルの周知・確認
5月	重傷事故予防対策の確認 ヒヤリハット上位者の予防対策を確認 事故報告書取扱要領の見直し
6月	「事故予防のトランスファ」の研修会を開催 事故報告書取扱要領の改正
7月	事故報告フロー改正 重傷事故予防対策の確認
8月	ヒヤリハット上位者の予防対策を確認 重傷事故予防対策の確認 転倒転落予防マニュアル見直し
9月	与薬チェックにて職員の与薬方法の確認 「介護職のための薬の基礎知識」研修会を開催 転倒転落予防マニュアル見直し
10月	事故フロー再度見直し・改正 重傷事故予防対策の確認 ヒヤリハット上位者の予防対策を確認
11月	ヒヤリハット上位者の予防対策を確認 重傷事故予防対策の確認
12月	ヒヤリハット上位者の予防対策を確認 重傷事故予防対策の確認 薬に関する事故が続くため、職員にフロア会議で注意喚起を行う。
1月	ヒヤリハット及び事故の傾向について確認 重傷事故予防対策の確認
2月	重症事故予防対策の確認 令和2年度の事業計画案の確認と決定
3月	ヒヤリハット及び事故の傾向について確認